

第6節 日米共同訓練・演習など

日米同盟は、わが国の安全保障にとって不可欠であり、その抑止力・対処力の強化にあたり、日米共同訓練は重要な役割を果たしている。自衛隊は、各軍種間の共同訓練や日米共同統合演習（実動演習および指揮所演習）

を着実に積み重ねており、自衛隊の戦術技量の向上や米軍との連携強化などを図るとともに、地域の平和と安定に向けた日米の一致した意思や能力を示してきた。

1 日米同盟の強化に資する訓練

1 統合による日米共同訓練

自衛隊は、1986年以来、武力攻撃事態などにおける自衛隊の運用要領および日米共同対処要領を演練し、自衛隊の即応性と日米の相互運用性の向上を図るため、日米共同統合演習「キーン・ソード」（実動演習）、「キーン・エッジ」（指揮所演習）を行っている。

2024年度は、令和6年度日米共同統合演習「キーン・ソード25」を行い、わが国防衛のための日米共同対処および自衛隊の統合運用について演練・検証し共同統合運用能力の維持・向上を図った。本演習には、同志国との連携強化を図るため、豪軍とカナダ軍が参加した。

2 各自衛隊の日米共同訓練

(1) 陸上自衛隊

近年、陸自は、中央・太平洋レベルなどの米陸軍および米海兵隊と運用上・戦略上の連携を強化している。共同訓練は、ハイレベル交流などとあわせ、日米共同対処態勢の抜本的な強化につながる取組として、進化・発展

を続けている。

2024年度は、米陸軍と行った「オリエント・シールド24」、米海兵隊と行った「レゾリュート・ドラゴン24」など各種の共同訓練により、日米の連携要領の具体化および相互運用性の向上を図った。また、積雪寒冷地における米陸軍との共同訓練「ノース・ウインド25」を行い、日米それぞれの部隊が有する積雪地での戦術行動にかかるノウハウを共有するなどあらゆる事態に対処しうる能力の向上を図った。

ア 米陸軍との実動訓練「オリエント・シールド24」

陸自は、2024年7月、領域横断作戦と米陸軍のMDO（Multi Domain Operation）を踏まえた日米の連携能力向上に資する訓練を行った。本訓練では、日米共同での電子戦とヘリボンなどを連携させた諸職種協同による戦闘訓練を行ったほか、陸自155mm榴弾砲（FH-70）、米陸軍および米海兵隊高機動ロケット砲システム（HIMARS）High Mobility Artillery Rocket Systemなどによる実射訓練、サイバー攻撃対処に関する専門家交流を行った。



令和6年度日米共同統合演習（実動演習）「キーン・ソード25」
（2024年10月）



日米共同ヘリボン戦闘（2024年7月）

イ 日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン24」

陸自は、2024年7月から8月にかけて、領域横断作戦と米海兵隊のEABO¹を踏まえた連携を焦点としつつ、一連の島嶼防衛^{しよ}作戦について演練した。本訓練は、西部方面総監部と第3海兵機動展開部隊司令部以下により行う、国内における米海兵隊との最大規模の訓練である。陸自の地対艦誘導弾（SSM）、陸自V-22、対戦車ヘリコプター（AH）、米海兵隊の高機動ロケット砲システム（HIMARS）、MV-22を演習場などに展開させ、対艦戦闘、対着上陸戦闘実動訓練など、島嶼防衛に必要な訓練を行った。また、陸自の輸送ヘリコプター（CH-47）による患者後送や空自C-130H輸送機による空中投下補給を行い、島嶼部における作戦の持続性を向上させた。

(2) 海上自衛隊

海自は、伝統的に米海軍と精力的に共同訓練を行っており、艦艇や航空機による日米共同訓練、対潜特別訓練、掃海特別訓練、衛生特別訓練、日米衛生共同訓練を通じ、日米共同対処などの実効性や領域横断作戦能力の向上を図っている。

例えば、米海軍空母打撃群との共同訓練を着実に積み

重ねるとともに、わが国周辺海域、東シナ海、南シナ海において幅広く日米共同訓練を行い、日米同盟の抑止力・対処力を不断に強化している。また、2024年度には、掃海特別訓練を初めてグアムにおいて行うとともに、陸自および米海兵隊との共同訓練や、空自および米空軍との搜索救助訓練「RESCUE FLAG IWAKUNI」や「RESCUE FLAG OKINAWA」など、他軍種を交えた日米共同訓練を積極的に行い、総合的な抑止力・対処力の強化に取り組んでいる。

(3) 航空自衛隊

空自は、1996年以来参加している米空軍演習「レッド・フラッグ・アラスカ」や、1999年以来行っている米空軍との共同訓練「コープ・ノース」（2011年以降は日米豪で実施）などを通じ、日米同盟の抑止力・対処力を強化している。また、米海軍や米海兵隊との対戦闘機戦闘訓練、要撃戦闘訓練、防空戦闘訓練、搜索救難訓練などの各種日米共同訓練により、日米共同対処などの実効性の向上や領域横断作戦能力の向上を図っている。

2024年は、前年に引き続き米空軍のF-35A/B戦闘機やB-1爆撃機、B-52爆撃機を含めた訓練を行うなど、強



洋上補給を実施中の「ワシントン・チャンパース」および「かが」
(2024年11月)



米空軍との共同訓練 (RESCUE FLAG OKINAWA) (2025年1月)



資料：進化する日米共同訓練(陸自)

URL：<https://www.mod.go.jp/gsdg/about/japan-us/index.html>



動画：令和6年度国内における米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン」

URL：<https://youtube.com/watch?v=rwaVCfzRqsc>



1 機動展開前進基地作戦。敵の火力圏内において迅速に分散展開し、一時的な拠点を設置することにより前線での作戦を実行する作戦構想。

固な日米同盟のもと、自衛隊と米軍の即応態勢を確認し、あらゆる事態に対処する日米の強い意思と緊密な連携を内外に示した。

自衛隊と米軍は、引き続き、わが国の防衛および地域

の平和と安定の確保のため平素から緊密に連携し、あらゆる事態に即応するため、万全の態勢を維持していくこととしている。

 参照 資料 29 (主な日米共同訓練の実績 (2024年度))

2 日米に第三国を交えた多国間共同訓練

各自衛隊は、米国のみならず、第三国の参加も得たハイレベルな多国間共同訓練に積極的に取り組んでいる。オーストラリアや欧州諸国の軍隊を交えた訓練を通じ、自衛隊の戦術技量の向上を図るとともに、各国軍隊との連携および相互運用性を高め、わが国の抑止力・対処力を強化している。

1 統合による日米に第三国を交えた多国間共同訓練

(1) 複数領域における日米韓共同訓練「フリーダム・エッジ」

自衛隊は、2024年6月と11月、米軍および韓国軍と複数領域における日米韓共同訓練「フリーダム・エッジ」を行った。本訓練は、2023年の日米韓首脳会合および2024年6月のシャングリラ会合の際に行われた日米韓防衛相会談において実施の発表がなされた。本訓練では、弾道ミサイル対処訓練、防空戦闘訓練、対潜戦訓練、サイバー攻撃対処訓練を一部連携して行い、複数領域における日米韓共同対処能力を強化した。

(2) 米国主催多国間共同演習「ヴァリアント・シールド 24」

自衛隊は、2024年6月、複数の同志国軍とともに、米国主催多国間共同演習「ヴァリアント・シールド 24」に参加した。本演習は、2006年から隔年で米国が単独で実施している統合・実動演習であり、今回初めて自衛隊を始め、複数の国を一部の訓練に米国が招待することで

多国間共同演習へと拡大された。本演習の参加により、インド太平洋地域における同盟国と同志国との相互運用性やパートナーシップの強化を図った。

2 各自衛隊の日米に第三国を交えた多国間共同訓練

(1) 陸上自衛隊

ア 令和6年度米豪軍との実動演習「サザン・ジャッカルー24」

陸自は、2024年5月から6月にかけて、オーストラリアで行われた米豪軍との実動演習に参加し、重要施設などの防護、市街地における搜索・撃滅、森林錯雑地訓練などを行い、陸自部隊の作戦遂行能力の向上、米豪軍部隊との連携強化を図った。



豪陸軍との森林錯雑地における搜索・撃滅訓練 (2024年6月)



動画：日米共同訓練Rescue Flag Okinawa

URL：<https://youtu.be/2wjXvLuzOwg?si=XFaa8P4RQaUVycJT>



動画：令和6年度豪州における米豪軍との実動訓練「サザンジャッカルー24」

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=3lyxLFONntk>



イ 日米豪共同指揮所演習「ヤマサクラ」(YS-87)

2024年12月、わが国で行ったYS-87は、日米豪陸軍種による最大規模の指揮所演習である。

演習では、島嶼防衛を含む各種事態を想定し、米海兵隊の参加も得て、陸自の領域横断作戦、米陸軍のMDOや米海兵隊のEABOを踏まえ、豪陸軍を加えた日米豪共同による島嶼防衛作戦を演練した。

また、フィリピン、英国、カナダ、シンガポール、フランス、インドがオブザーバーとして本演習に参加し、相互の連携を強化した。



日米豪共同訓練「コープ・ノース25」(2025年2月)

(2) 海上自衛隊

ア 日米豪共同サイバー演習「ブルー・スペクトラム24」

海自は、2024年5月と9月、米海軍および豪海軍とサイバー対処に関する共同訓練を行った。サイバーセキュリティに関する技量の向上および米・豪海軍サイバー対処部隊との相互運用性の向上を図り、日米豪サイバー関連部隊間の抑止力・対処力を強化した。

イ 日米印豪共同訓練「マラバール2024」

海自は、2024年10月、ヴィシャカパトナム（インド）と同周辺海空域において米海軍、インド海軍、豪海軍および豪空軍との共同訓練を行った。海自からは、護衛艦「ありあけ」および特別警備隊が参加し、対潜戦、対空戦、対水上戦などの訓練を行い、参加各国との相互運用性の向上を図った。FOIPの実現の中核となる4か国の枠組みで、「マラバール」を継続して行ってきた意義は大きく、引き続き関係強化に取り組むこととしている。

Free and Open Indo-Pacific

(3) 航空自衛隊

空自は、2025年2月、グアムを拠点とする日米豪共同訓練「コープ・ノース25」に参加した。本訓練では、空自のF-35A戦闘機、E-2D早期警戒機およびKC-46A空中給油・輸送機が初めて国外訓練に参加した。日米豪3か国のF-35A戦闘機の初めての共同訓練などを行い、日米共同対処能力、日米豪の相互運用性の向上を図った。



令和6年度日米共同統合演習（実動演習）「キーン・ソード25」

わが国防衛のための自衛隊の統合運用および日米共同対処能力の維持・向上を図るため、2024年10月、日米共同訓練として最大規模となる「令和6年度日米共同統合演習『KS25』」を実施しました。

本演習では、これまでの演習で積み重ねてきたわが国の防衛にかかる様々な訓練をさらに深化させるとともに、一例として衛生機能の強化を図るために、日米の航空機などを使用し、島嶼部^{とうしょ}から本州の主要な自衛隊病院までの一連の医療・後送態勢を演練する患者後送訓練を実施しました。衛生機能は任務達成のために必要不可欠なものであり、根幹を訓練することにより、KS25はより実践的なものとなりました。

さらに、KS25の実施にあたり、住民の皆様の深いご理解および関係地方公共団体などのご協力により、民間空港・港湾において、日米の航空機や船舶などを使用した訓練を実施できました。また、本演習の一部に豪軍およびカナダ軍が参加したことにより、同志国との連携を強化することができました。

わが国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、防衛省・自衛隊は、このような演習を通じ、あらゆる事態に即応するための抑止力・対処力を強化するとともに、日米の強固な意思と能力を示すことで、わが国防衛および地域の平和と安全の確保に取り組んでいます。



航空機内にて陸上自衛官を救護訓練中の米軍隊員



患者後送のため航空機へ患者を担架搬送する様子